

プランターメロン収穫祭開催

7月17日からダイソーイオンモールつがる柏店の入口で展示しているプランター栽培のメロンが収穫時期を迎え、いなほ保育園、しげた保育園、川除保育園の園児24人が、市農村青少年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）のメンバーと一緒にメロンを収穫しました。

この日、イオンモールつがる柏のしゃこちゃんコートには、4Hクラブのメンバーが丹精こめて栽培・管理してきたメロンの鉢がずらりと並べられ、どの鉢にも網目がはっきり入った大きなメロンが育っていました。

園児たちは、4Hクラブのメンバーに教わりながら、はさみでつるを切って収穫したメロンを大事に抱えていました。

4Hクラブの高橋祐弥さんは「子どもたちが笑顔で収穫してくれてうれしい」と話しました。

収穫を終えた園児たちは「つるをハサミで切るのがかたかったけど楽しかった」「おうちに帰ったらすぐ食べたい！」と笑顔で話しました。



プランターメロンを収穫した園児と4Hクラブのメンバー

8/19
イオンモール
つがる柏

皆さまの善意に感謝します

8/20
市役所



倉光市長に目録を手渡す今会長（右）と嶋野幹事

つがるロータリークラブ（今淳一会長）が、亀ヶ岡石器時代遺跡の南側に隣接する縄文遺跡案内所付近に、観光客の休憩所として役立ててほしいと、市にガーデンベンチ2基を寄贈しました。

この日、今会長と嶋野塚也幹事が市役所を訪れ、倉光市長に目録を手渡しました。

今会長は「観光客の皆さんが快適に過ごしていただけるよう末永く利用してほしい」と話しました。

倉光市長は「これまで案内所付近では座って休む場所がなかった。これからは憩いの場として利用できるので、大変ありがたく思っています」と感謝しました。

9/3
向陽小学校

車力漁業協同組合（尾野明彦代表理事組合長）が、地元の特産品を市内の児童生徒たちに知ってもらいたいと、市にヤマトシジミ120*₀を寄贈しました。

この日、市内の全小中学校と森田養護学校の学校給食に活用され、児童生徒たちにしじみ汁として提供されました。

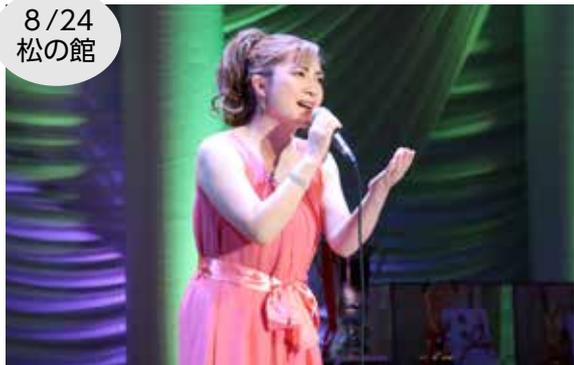
向陽小学校（平川公明校長）4年の稲葉日鴻君は「シジミのだしがきいていてすごくおいしかった。また給食に出てきてほしい」と笑顔で話し、しじみ汁のおかわりをする児童たちが列をなすほどの大人気でした。



しじみ汁をおかわりする児童

上原げんと杯争奪のど自慢大会 優勝者決定

8/24
松の館



悲願の優勝を勝ち取った三津谷さん

第46回上原げんと杯争奪のど自慢大会（上原げんと杯実行委員会主催）が開催され、予選を勝ち抜いた歌手が集まった聴衆約500人の前で自慢の歌を披露しました。

この日、予選を勝ち抜いた30人による準決勝と、準決勝上位10人による決勝、さらには決勝上位3人による優勝決定戦が行われ、優勝者が決定しました。

見事優勝に輝いたのは、優勝決定戦で「花筏」（暁月めぐみ）を熱唱した平内町の三津谷有華さん。三津谷さんは、20年前の初出場以来、15回目の挑戦で栄冠をつかみました。「この結果を、ずっと応援してくれていた95歳のおじいちゃんに報告したい。この名誉に恥じないよう精進し、心を打つような歌を歌っていきたい」と喜びを語りました。

駿河台大学駅伝部によるスポーツ講習会開催

8/31
木造中学校



部員から速く走るための正しい足の着き方を学ぶ参加者

今年の第100回東京箱根間往復大学駅伝競走に初出場した駿河台大学駅伝部が、10月19日に行われる第101回予選会に向けて、8月29日から9月4日までの間、本市で合宿を行いました。

本市を訪れた駅伝部員20人は、つがる地球村に宿泊しながら、関東よりも涼しくトレーニングに適した環境の中、毎日練習に励みました。

この日、木造中学校で市民を対象にスポーツ講習会も行われ、児童生徒から大人まで60人が参加し、速く走るための体の使い方やトレーニング方法を学びました。

キャプテンの黒川拓海選手は「今日紹介したトレーニングを普段の練習で少しでも取り入れてもらえたら」と話しました。

早稲田大学文化構想学部の西城戸誠教授とゼミ生29人が、本市の中心商店街である木造地区の有楽町、千代町の賑わい創出に関する研究のため本市を訪れました。

この日、ゼミ生は木造駅から街歩きをしながら市役所まで移動し、商店街の状況を確認していました。今回は2泊3日の日程で、商店街の各店舗で聞き取り調査を実施し、最終的に数年程度をかけて研究をまとめる計画。

市役所を訪れたゼミ生に対し、倉光市長は「商店街の長所や課題を深掘りしていただき、有意義な現地学習になることを期待しています」とあいさつ。

ゼミ生を代表して、4年生の一田晋作さんが「今回の調査を通して、つがるの方々に新しい発見や得られるものがあれば」と話しました。

商店街の賑わい創出の糸口を探る

9/3
市役所



西城戸教授（最前列左から4人目）とゼミ生の皆さん

体験せよ 縄文ロマンと世界遺産



9/7
亀ヶ岡石器
時代遺跡

石斧でカヤ割りを体験する親子

世界文化遺産登録3周年を記念し「JOMON亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚まつり2024」(NPO法人つがる縄文の会主催)が開催されました。

会場では、ステージイベントやクラフト・飲食マーケットなどが出店され、まつりを盛り上げました。

また、勾玉づくりやミニ石斧づくりなどの体験も行われ、多くの人でにぎわいました。

東京都から親子3世代で訪れた直篁さん家族は「石斧の切れ味が思っていたよりもすごかった。とても貴重な体験でした」と話しました。

夏の一献祭開催

冬に稲垣地区で開催している一献祭が、夏は舞台を松の館に移して開催されました。

この日、全国でも有名な西田酒造（青森市）、鳩正宗（十和田市）、三浦酒造（弘前市）、八戸酒造（八戸市）の4つの蔵元が自慢の逸品を持ち寄り、その特徴やおすすめの飲み方などを解説しました。

人気の田酒、鳩正宗、豊盃、陸奥八仙を中心に約120本、定番から普段なかなか飲むことができない限定品まで約50種類の日本酒が紹介され、参加者は「豊富な日本酒のセレクションに感動した」「いろんな味わいが楽しめた。次も参加したい」と笑顔で話していました。



9/7
松の館

蔵元から解説をうけながら日本酒を楽しむ参加者